



午前 6 時 3 分。定刻どおり、南野原駅発 北海岸駅行きが出発。
まだ、朝早いせいか、2両しかない小さな電車だけれど、乗客も4人しかいない。ひとは、背中に大きな荷物をかついだ行商のおばあさん。この人は、毎朝かならず、始発のこの駅から、乗り込んでくる。南野原の畑で取れた、レタスやナスを町に売りに行くのだ。

もう一人は…この人もいつも、いっしょだ。きちんとネクタイをしめた男の人。大きな会社やデパートがある一番街駅で降りて行くから、きっと会社員だ。それにしても、森や畑ばかりの南野原のいたい、どこに、この人は住んでいるのかな？ そうして、残りは…まだ一度も見かけたことのない、男の子の二人連れ。こんなに朝早く、日曜日でもないというのに、どこに行くのだろう。子どものひとは、茶色いリュックサックを持っていて、ひとは白い帽子をかぶっている。ハイキングにでも、行くのかな？ とても仲が良さそうだけど、何も話さずに、ときどき外の景色を眺めている…

子どもたちを見つめていたら、もう次の樺の木駅が近づいているのに気がついた。あわてて、ベルを鳴らして、停車の準備をする。

行商：品物を持ち歩いて売ること

- 1 この電車は、どこから、どこまで行くのですか？
- 2 4人のうち、男の乗客は何人ですか？
- 3 行商のおばあさんは、町に、何をしに行くのですか？
- 4 会社員のような男の人は、いつも、どこの駅で降りるのですか？